会　議　録

会　議　名		平成 30 年度第 3 回八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 計画策定部会
日　時		平成３０年 11 月 12 日（月）　午後 3 時 30 分～4 時 15 分
場　所		八王子市役所　本庁舎　502 会議室
出席者氏名	委　員	井上仁部会長、大宝院清孝副部会長、荒井容子委員、岡崎理香委員、野中真理子委員、山本由佳理委員（部会長、副部会長、以下五十音順）
	関連所管	
	事務局	澤田子どものしあわせ課長、小俣保育幼稚園課長、福田子育て支援課長、小池児童青少年課長、辻井子ども家庭支援センター館長、後藤主査
欠　席　委　員		三浦佐知子委員
議　題		議題 （1）第４次子ども育成計画策定に関する基本的な方針について
公開・非公開の別		公開
非公開理由		
傍聴人の数		0 名
配付資料名		別紙のとおり
会議の内容		別紙のとおり
会議録署名人		平成 30 年 12 月 19 日　　大　宝　院　清　孝

配付資料

○同日開催の分科会と同じ

【澤田子どものしあわせ課長】

ただ今から、八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会　計画策定部会　平成３０年度第３回会議を開催します。

本日は、委員７名中、欠席者は１名で、開催要件確認を満たしております。

配布資料ですが、先ほどの分科会でお配りした、「資料４」を引き続き使用したいと思います。

【井上部会長】

議論する時間についてですが、2 月までとなると 12 月、1 月にかなり精力的に話し合いをしないと文言含めて詰まっていかないので、分科会の前に最終的な確認の部会を開かせていただくとして、その間、全員集まらなくても委員と事務局がいるくらいの規模でプロジェクト的な扱いで話し合いの場を持ちながら詰めていくようにしないと難しいと思います。行政の対応とか新しく動き出している所もいくつかあるので、その辺をお聞きしていかないといけない。意見が出た中で出来ている部分もあると思います。

少子化対策の評価とかも含め、まだゼロの状態で、委員も代わっていますので、そういう勉強も含めてどうやろうかなと思うのですが、いかがでしょう。

基本理念を話す前に基礎データが無いと。前回は理念を話し合う前に各課から今後の見通しのヒアリングをしました。基本的な人口問題、保育の需要予測、虐待の相談件数とか。八王子の情報のベースが無いと、重点化するにしても、今日みたいになってしまう。理念だと、それぞれの得意分野でお話していただく訳にもいかないので、八王子全体の状況を見させていただいて、それに基づいて何が必要なのか議論していかないと。

１点目は、人口減少に関して言うと、少子化に歯止めがかかっていない。そこは特化しないといけない。この計画自体がそこに歯止めを利かせるのですから、保育だけではなくて、人口減少どうするのかという所で子どもという領域の中でどう対応するのかがポイントだと思います。国勢調査が終わっているので、人口予測が 10 年先まで出ていると思います。そういうデータをいただいて各年齢区分を見る事と、若年層の人口移動がどれくらいあるのか。新しく市の方から今回提示された若者支援まで連続して考えるとなると若者層の人口移動が八王子はどれくらいあるのか。大学をこれだけ抱えているので全部が住民票を移動してきていないとは思いますけど、基本的ベースによっては検討の仕方が変わるので、データが必要になってくるのかなと思います。次回の会議日程とか決めながら話し合いの仕方をまずやらないといけないのかなと思います。みなさんいかがでしょう。

保育指針にも新しく書かれている教育のほうとの擦り合わせもしていかないといけない。

障害児の施策を子ども家庭部が持っていないので、障害児計画との擦り合わせが当然出てきます。もう一回委員のみなさんにお渡しして、そういう材料をそろえる事と、館長とも話しましたが子ども家庭支援センターの仕組みが変わり、市としてどういう相談体制なのかとか、前回と違う所とかの全体の説明が少し無いと道筋が見えません。

ミライフォーラムの細かい資料、子ども達の何を活かすのか、来年のミライ会議との連携をどうするのかとか、岡崎委員からもありました参画という中での柱ですから外せないと思うので、その辺含めて担当課のほうでも事前に検討しておいていただいて、その時期に計画の改定を合わせないと、ミライ会議を開く時にもう終っています、という事になっては、見せかけの参画ではまずいので、ギリギリですよね。秋にヒアリングかけるのですよね。8 月末で原案が確定になると思うので結構厳しいです。その辺りを含めて擦り合わせが必要なのかなと思います。

計画策定で初めての方もいらっしゃいますので、前期計画がベースになるので、よくお読みいただいて、理念も含めて見直していきますので、基本的には「みんなで育てる」は変わらないので柱は変わってこないですが、新しく何をどう盛り込むのか。一番大きいのは、少子化対策としてうまくいっていないという所を踏まえてどう踏み込むか。子ども参画もそこに理屈付けもしていかないといけない大変な計画になると思います。国も闇雲に法律を延ばしたわけではなくて、時限立法を延ばすというのはすごく重い意味を持ちますのでそこも含めてお考えいただく事になると思うので。

フリートークしても言いっ放しで終わってしまうので、整理をしていかないといけないですけど、どうしましょう。

八王子の将来像の所で人口構造に関しての予測図は一回お示しいただいて、そこに対してどうアプローチするのか基本的な所を明確にしないと、子ども育成計画は成り立たないので、その辺の評価ですよね。保育も難しくて、いま駅前が結構厳しいですか。

【澤田子どものしあわせ課長】

駅の周辺が少し厳しい、あとはみなみ野地区が増えています。

【井上部会長】

たとえば、都市計画の中で大規模マンションは八王子では網かけてないですか。網をかけて保育園を作っているのですか。

【小俣保育幼稚園課長】

大規模マンションの場合、一応は協議の対象になっています。子ども家庭部に協議しています。

【井上部会長】

その辺の実態とか、これからも駅前マンションは避けられないですよね。

【澤田子どものしあわせ課長】

今の所対応は出来ているという考え方です。

【井上部会長】

6～7 年先なので結構大きいですよね。中学校区でみていくとなると、駅前の地区がパンクしますか。

【小俣保育幼稚園課長】

いずみの森が今、小中一貫校で大きく、45 クラス（５クラス×９学年）規模の校舎を作っています。

【澤田子どものしあわせ課長】

そこに保育園も作っている。50 名定員で平成 32 年に。

【井上部会長】

八王子市全体の都市計画は済んでいる、そこと子ども計画との擦り合わせが必要ですよね。多摩地区とか、みなみ野地区は現在多いけど今後はどうなのでしょう。

【澤田子どものしあわせ課長】

まだ少し足りない状況が続いているが、ここで保育園が 1 園出来ますので待機児がゼロになると予測しています。地区計画の中で中学校全部はすごく難しい。どういう知恵を絞り合うのか。

【小俣保育幼稚園課長】

今、子ども安心プランの中では 14 地区で提出しています。

【井上部会長】

ベースになるデータありますか。一回お見せいただいて、中学校区 37 でしたっけ。

地域福祉計画とどう擦りあわせるのか、結構難しい課題ですよね。高齢とかも擦り合わせているわけですよね。保育所は圏域が広い。その考え方を示さないと上位計画はあちらなので、勝手にこちらが都合よくあわせましたというのは説明に苦慮します。地域福祉計画の重さは市にとってみれば大きな計画の一つで、福祉で言うと一番の基本計画ですから。

【小俣保育幼稚園課長】

保育園まわり 1.5㎞ 以内でそこに通っている人が 6～7 割、残りが圏外とういう傾向まではつかんでいます。

【井上部会長】

中学校区になると難しいですよね。境に立つ保育園はどうするのか。両方に被った場合の判断が難しいし、川が一本あると保育園は来ないですから。その辺は計画の中では説明が必要になってきますよね。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

子ども家庭支援センターは、地域のセンター5 か所の中をさらに中学校区に分けてやっていますけど、中学校区は町ではなく、道で分けているので民生委員の地区とも合わない。無理しながらやっている状況です。

【井上部会長】

子ども家庭支援センターはネットワーク会議が中学校主体とすれば分かりやすいでしょうけど。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

中学生になると自由なので、そこの中学校で開いても、子どもは住んでいるけれどもエリア外の中学校に通っているという現象が生じていて難しくなってきています。

【井上部会長】

その辺を合理的な説明をしながらどういうふうに圏域を考えていくのかとか。あと、若者支援をどう取り組むのか。今回、市が踏み込んできましたけど、どういう考え方なのですか。

【澤田子どものしあわせ課長】

具体的に取り組む内容については今後検討していきたい。

【岡崎委員】

何を支援するのですか、居場所なのですか。若者って 39 歳まで若者ですよね。年齢幅があまりにも広すぎてターゲットをどこかに絞らないと、若者支援と一言で言っても何を支援するのか分からなくなる。非正規・正規の格差とか、若者に聞くと収入面とか経済的な支援が一番の若者支援になる所ですけれども、子ども育成計画における若者支援とは何なのかなと。井上先生はどうお考えになりますか。

【井上部会長】

八王子がどういう施策の中でどういう範囲を考えるのか。たとえば世田谷区では 29 歳までを一つのラインにしています。行政の裁量の範囲なので。若者支援協議会は法律なので 39 歳までですが、29 歳までの間に自立できなければさらに難しいと考えて、その間に就労支援含めて相談ケア、居場所の問題に集中させています。行政としてどこまで取り組もうとするのか。39 歳と言われると難しい。ある程度 20 歳代を主にターゲットにしながら若者の自立に焦点を当てる、ニート対策とかひきこもりだとか若者達に焦点化をするという考え方で言うと、居場所とか相談箇所とかの考え方も出てくると思います。30 歳を越えると新たな問題が出てきます。家族との問題とか、保健衛生との問題で言うと、30 歳台になると保健センターとの関わりが難しくなる。また、家族計画まで含めて考えていかないといけない。違う部会を設けて専門の人に入ってもらわないと、子ども分野だけでは難しいですよね。若者支援法で言うと、今度子ども若者協議会になるので、その点も変わるので、審議会がここでいいのかという話にもなる。そこは考えていますか。

【澤田子どものしあわせ課長】

若者協議会が必要となってくる事は承知しています。

【井上部会長】

世田谷区は若者支援で動いているのは就労支援だけ。相談支援はまだ動いていない。限界があるので、連続性から考えるといって 20 歳台で考えていかないと手に余ります。いい加減な計画なら意味がありません。行政として児童青少年課はあるが、受け皿はどうするのか。計画を作るという事は、実施所管を作るという理解でいいのでしょうか。計画スタートは 2 年後、そこまで考えていらっしゃるのでしょうか。

【小池児童青少年課長】

今の児童青少年課の体制ではとても対応できないので若者支援課のような課が必要ではないかという議論が始まろうとしている所です。

【井上部会長】

計画の中で実施所管も含めての検討という考え方でいけばいいのかな。そうなるとターゲットの年齢をある程度絞らないと難しいと思う。

【岡崎委員】

そうすると、たとえば基本方針とか基本施策の中に若者の満足感とか、充足感とか、一体感とかを醸成させるようなキャリア教育とかを入れるという事ですか。直接的な就業支援は難しいので。

【井上部会長】

問題は、八王子では相談機関がない。

【岡崎委員】

教育委員会になるのか分かりませんが、若者もそうですが子どものうちからキャリア感、キャリアというのは仕事だけではなく人生設計感のような教育を取り入れるような事をうたうとか。

【井上部会長】

それは難しい。市の計画だと中学校で切れてしまう。高校が都立・私立になってしまいます。大学に関しては別法人になってしまうので。社会教育の中にだと入れられるかもしれませんが、学校教育との連携で言うと、小中くらいまでは連携化できてもその先は難しい。

【岡崎委員】

八王子に居るからこそ、自己肯定感とか生きがい感が増すような事を議論することができるといいですね。

【井上部会長】

若者インターンシップ制度を八王子の中の産業とか林業とかを使いながら作って、それをコーディネートする機関をどうするか。今で言うと児童青少年課がやるとパンクしてしまうので、そこを含めて計画の中でどういう段階でいくのか議論があってもいいと思います。八王子は資源が使える所はたくさんある。地場産業を活かせば、若者のインターンシップ制度とか今は動いていませんけれど、今ある国の制度でも出来るのでやればいい。

外国人労働者に取られてしまう前に制度を作るとか、難しいがアイディアはある。それを所管する所をどうするのか、今の労働関係に行ってしまったらそういう形では動きません。

新しい部、課を作るか、委員会でも、何か提言をしていかないといけないかもしれない。結構重い課題をいただいている。

あとは、人口減少で言うと 2010 年に国連が定めた継続可能な開発という考え方、今回は入れ込んでいかなくてはいけない。量から質とかの話もいただいているので、その辺は柱になってくる。八王子を継続させるためにという基盤で言うと、少子化にどこかでくさびを打っていかないといけない。と同時に、若者の流出という意味では今回タイムリーかなと思いますが、かなり知恵を絞らないと計画の中に何を盛り込むのか、言うのは簡単だ

が難しい。計画を作る段階でだれが行政で一緒に考えてくれるか、パートナーが居ない中で計画を作るのはすごく苦しい。

【澤田子どものしあわせ課長】

子どものしあわせ課と、児童青少年課で一緒になって考えていきたい。

【岡崎委員】

今回若者支援を入れたという事は、八王子で育った子どもをずっと若者世代まで流出させないという意図なのですよね。もちろん他から来た人もそうですが、八王子で育った子ども達をそのまま八王子に留めて置かせるような視点ですか。

【井上部会長】

それと同時に呼び戻さないといけないですね。八王子の大学に行くとは限らないから。

【澤田子どものしあわせ課長】

八王子で生まれた子に戻ってきてもらう視点もあります。

【井上部会長】

優秀な人材を八王子に引っ張り込むという、この二つがないとだめですよね。

【岡崎委員】

そうすると、子ども支援とはちょっと分断した支援になりますよね。

【井上部会長】

若者支援ってやっぱり家族支援ですよ。若者個人をいくら支援してもダメで、家族の問題としてあるので継続が無いと。児童相談所や子ども家庭支援センターが相談に乗ってきたけど、18 歳になったら相談終了というのが今までたぶん多くあって。そうするとその家族と関係がなくなってしまう。

若者に関してはサポートに入る手段がない、次は両親が高齢化して初めて福祉が介入するまで待つという。家族支援の仕組みまで含めて若者支援で考えていかないといけない。世田谷が居場所って言い出しているが若者シェルターまでは無いのです。そういう事を含め、ある程度家族をサポートするサービスまで含めて若者支援って考えていかないと難しい。児童館で一時的に相談機能持たせるとか、児童館という名前では若者は来ないのでユースセンターみたいにして若者相談員のような人を置かないと、専門の相談員を置いておかないとメンタルの相談がすごく多いので、ひきこもり・不登校等、どこまで八王子は踏み込むか。若者支援は結構難しいですよ。子ども家庭支援センターが中高生で苦戦するでしょ、それを引きずって行くわけですから。子ども家庭支援センターは 18 歳超えたら対

象外。児童青少年課も学童と児童館だけだから。

【小池児童青少年課長】

児童館の職員も若者までは知識がないので勉強していかないといけない。

【井上部会長】

準備期間をおいて勉強していただいて、今ある１０館いきなりユースセンターに変えるのではなく５～６年の間に段階的に、研修とか職員の意識改革、専門職を入れていく事を含めると、一気にという話にはならないと思います。それを進める行政側の人がいないと、児童館の人が変えられる訳じゃないので。子どものしあわせ課と児童青少年課とのタッグだと思うので、一回ご検討いただきたい。理念としてやっていくという事ではみなさんいいですかね。

【野中委員】

若者の居場所支援というが、家から出てこないでネットに向かっていてそこで何かを抱えている若者がいると思う。そこにこちら側からはアクセスできない。または、地域の人間関係よりネット上で人間関係を作っているお母さん達もいると思う。そこが居場所になっている人もいるかもしれない。若者の中で起きている事を支援する側が、現実の若者の実態、何を求めているのかを全然分かっていないような気がします。パートナーとして当該の若者を是非入れていただけたらと思いました。

【井上部会長】

居場所の問題は行政の目玉になりますが、居場所は一つの選択肢でしかない。一番見えにくい方々なので、片方でアウトリーチもしていかないと。では、だれがアウトリーチするのか、誰でもいいわけではない。そこに専門の方々がいて、ターゲットは若者だけど、その周りで困っているのは家族なのでその方々の声も聞ける人でないといけない。

ターゲットに直にいく事だけが若者支援ではないので、その家族をどうサポートするか。上手くいかない事について当事者が気付きをして初めて次の問題に行く。そこが出来るようなアプローチをどうするのか、若者支援の難しい所は専門家をどう置くのかという事です。更に難しいのは、ニーズが見えない。そういう事を含めてどう考えていくのか。かなり議論していかないと今の若者支援、就労支援では仕事させればいいになってしまっている。ヤングハローワークにつなげよう、とういう事が目的ではないという事も、この計画の中では位置づけないと。子ども支援という言い方をするけど、子どもだけではなく家族を含めて全体を支えるという考え方が上がってこないと、若者がターゲットにされ、なん

で学校へ行かないのだ、というふうになってしまうと、若者支援には絶対にならないので。そこは計画に考え方を示していかないといけないし、理念とか考え方を書かないといけない。行政としての目標は、就労率とかでもいいと思いますが、基本的理念を整理していかないと、彼らにとっては放っておいてくれたほうがいいや、になってしまうので気を付けないといけません。

中高生のリーダーを育ててもらうあの活動は、子ども支援と同時に若者支援につながっていくので、そういう事も位置づける必要があるかなと思います。児童館の状況、今の中高生の状況って聞かないと分からない。中高生は今なかなか児童館に来ないですよね。

【小池児童青少年課長】

児童館によっても特色があって、地域で活動しようという思いの子もいたり、差があります。

【井上部会長】

高校 3 年生の 4 月生まれの子は 18 歳になるので児童じゃない、それが法律の冷たさなので。八王子はそうではないという事を、今回宣言していくという事なので覚悟がいります。

子ども家庭支援センターにも 18 歳で相談を切らないという事に変ってもらわないと。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

相談がつながっている子は卒業するまでは受けようという話にはしています。18 歳になっても高校卒業するまでは受けていますし、卒業後の相談ができる場所を見つけてあげて、保健所や、大学に進学する子には大学の相談室を案内している。18 歳になっても関係は続いています。

【井上部会長】

大学生も今は病んでいます。世田谷区の若者相談でも何割かは大学生です。4・5 月は大学生の相談が殺到するので。八王子は多くの大学を抱えていますから、大学との連携とか。大学に相談というのも勇気がいる。若者相談の重要性もあると思いますし。心理系の大学も八王子にはいくつかあるので連携してというのも大事です。そういう発想の中で途切れないという事が大事ですね。理念の中では途切れない支援というのも大きなコンセプトになりますし、都市として継続できるかどうかがキーワードになっています。

【岡崎委員】

次回はどこまでまとめるのですか。

【事務局】

２月の庁内会議に基本的な計画の考え方を出したいので、その部分の意見をいただければ。

【岡崎委員】

資料４の４番目、基本的な考え方について、事務局側から提案があった内容に賛同してもらいたいという事ですよね。そこにプラスするとか、削除するとかそういう事ですよね。

【井上部会長】

最終的には基本理念の所に影響するので、基本理念をやらないと柱が出せません。前期の計画があるので理念は基本的には踏襲しつつなので、新しく出来た、たとえば若者への考え方を含めては明確にしていかなくてはいけないという事ですよね。細かい文言については政策決定した後に計画の中で一つずつやっていくという考え方だと思います。本当は秋くらいに全部行政から、この間の報告を受けていないと論議にならなかったのをとばしている。この後５年間の計画です、その作業は丁寧にやらないと。事務局は大変かと思いますけど。

若者をどうするかとか、こういう論議していかないと、ただ文言だけいただいても、行政でやる気がない計画を立てても仕方ないし、我々も見極めていくのと、6 年後ですので。先を想像して、その頃の八王子を想像できない中で論議なんて出来ないですよね。計画の一番大事なのが 6 年後なので、そこをどう考えるのか行政のみなさんと論議をしないと、その時の八王子の姿が見えませんので難しいですよね。

子ども計画は根幹にかかわるので恥ずかしい物を作るわけにいかないし、八王子が選ばれないと仕方ないので。実施主体が無いのに施策がぶら下がるなんてありえないので。

一番の課題は、連続支援の若者支援を行政としてどう考えているのか、そこをいただかないと、覚悟はあるのですかと言いたい。

【小俣保育幼稚園課長】

若者支援を入れないといけないという視点でまだそれくらいかと思います。

【井上部会長】

スタートする立ち位置によります。５年間の間に協議して、実施主体を作ります、と言う考え方でいくのか。行政側の問題もあるかと思います。

今までは保育だと、保育幼稚園課があったから、注文出しても５年間の間で考えてくれました。若者で言ったら、注文出しても誰が考えてくれるのかという事になり、一本も施

策が出ない、という事も考えられる。そうなると計画する意味がない。市として主体的に５年間というスパンで計画を考えてくれる所を作ってくれないと。やるとなったら担当を数人置いてもらって、協議しながら５年間で何が出来るのか、組織の問題も当然出てくると思うので。児童館問題も絡むので、児童青少年課が絡むにしても、そこだけで若者支援にはならないので、是非担当の方を置いていただいて進むようにしていただくという事が条件です。次回その点がある程度あれば駆け込めます。

以上で本日の会議を終わります。